



平成 27 年 11 月 6 日

各 位

会 社 名 アーキテクト・スタジオ・ジャパン株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 丸 山 雄 平  
 (コード番号：6085 東証マザーズ)  
 問合せ先 取締役 管理本部所管 長 尾 康 三  
 (TEL. 06-6363-5701)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 27 年 5 月 14 日に公表いたしました平成 28 年 3 月期第 2 四半期累計期間及び通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

## 記

1. 平成 28 年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績予想数値の修正 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 820	百万円 65	百万円 65	百万円 39	円 銭 24.77
今回修正予想 (B)	632	△46	△46	△45	△28.56
増減額 (B-A)	△188	△111	△111	△84	—
増減率 (%)	△22.9	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成27年3月期第2四半期)	665	△8	4	△5	△3.29

2. 平成 28 年 3 月期通期業績予想数値の修正 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 2,000	百万円 500	百万円 500	百万円 300	円 銭 190.54
今回修正予想 (B)	1,450	15	15	△5	△3.17
増減額 (B-A)	△550	△485	△485	△305	—
増減率 (%)	△27.5	△97.0	△97.0	—	—
(ご参考)前期通期実績 (平成27年3月期)	1,451	74	90	28	18.49

3. 修正の理由

- (1) 第 2 四半期累計期間

住宅市場における自社ブランドの浸透・認知度向上及び新規アカデミー会員獲得を目的として、WEB 媒体を軸としたマーケティング施策を実施し、新規の会員獲得チャネルの構築に取り組むとともに、獲得した会員へ直接働きかけるための各種営業支援プロセスを構築いたしました。また、本部による建設資材の集中購買や建設資材のパッケージ化による加盟建設会社の仕入コスト削減、2名の登録建築家からの同時提案「プランニングコース DUAL」を導入することで成約率の改善及び成約手番の短縮に取り組みました。

しかしながら、WEB 媒体による新規会員の獲得には一定の成果を得たものの、プランニングコース利用増には至りませんでした。建設資材パッケージについては一部資材メーカーとの契約準備等が遅れ、商品ラインナップが不十分な状態でありました。また、「プランニングコース DUAL」は、利用会員がまだ少なく、設計契約までの手番を従来の 1 名型に比べ短縮するまでには至りませんでした。これらに加え、新規スタジオ加盟及びイベント開催数も計画を大幅に下回る結果となり、売上高は予想に比べ減収となりました。

損益面については、各種営業支援プロセス構築費が発生したものの、販売管理費は計画内におさまりましたが、売上高の減少により黒字予想から大幅な損失を計上する見込みとなりました。

## (2) 通期

新設住宅着工件数が持ち直してきたことを背景に、第1四半期時点では売上高・利益に関してはおおむね計画に沿って進捗しており、第2四半期も市場環境は同様に推移することを想定しつつ、需要喚起・成約率向上及び手番短縮のための各施策が功を奏することを前提に、業績見通しを据え置きました。

第2四半期累計期間の業績及び事業環境等を踏まえ、予想をより保守的に見直した結果、売上高は予想を大幅に下回る見込みとなりました。また、利益面については、業績回復を図るための諸施策に対応して要員増加を図るとともに、更なるマーケティング強化のための投資を行います。その他の経費削減に努め販売管理費については計画内におさまる見通しであります。しかしながら売上高の減少を補うまでには至らず、利益は大幅に減少する見通しとなりました。

この結果、第2四半期累計期間及び通期の売上高及び各利益が、平成27年5月14日に公表いたしました予想数値を下回る見通しとなりましたので、業績予想の修正を行うものであります。

以 上

(注) 本資料に掲載されている将来の見通しに関する事項については、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、将来の業績を保証するものではなく、実際は今後の様々な要因によって変動する可能性があります。